

kagoshima local network

## みなみネット@鹿児島都市圏

## おぎおんさあ宵祭、熱気

鹿児島島の夏の風物詩「おぎおんさあ」が20日、鹿児島市で始まった。同日は宵祭があり、夕暮れ時の天文館やJR鹿児島中央駅周辺を、総勢約400人が威勢よく練り歩いた。

「迫力があってかっこいい。後を追いかけて見ていたいくらい」と喜んだ。

21日の本祭は、午前10時半に清水町の八坂神社をみこしが出発。午後1時半に商工会議

所ビル前で発幸祭。行列は同2〜4時半、一帯の電車通りを巡る。午後1〜6時は電車通りの高見馬場―朝日通りが歩行者天国になる。(森山莉華子)



威勢よく通りを練り歩くみこし

＝鹿児島市中央

天文館地区に3基、中央駅周辺に1基の大人みこしが登場。法被姿の担ぎ手が「ソイヤ! ソイヤ!」と掛け声を上げながら、通りを巡った。観光客や買い物客は沿道から声援を送ったり、手拍子をしたたりしながら、みこしを見送った。

銀座通りでじゃが祭り  
鹿児島市千日町の天文館銀座通りで20日、同通り会主催の「じゃが祭りinnおぎおんさあ」があった。家族連れらが、周辺の店舗による出店やパルーンアートなどを楽しんだ。



「じゃが祭りinnおぎおんさあ」が「じゃが祭り」から付けられたタイトル。鹿児島中央警察署による安全教室や、奄美島唄のコンサ

ートがあった。同通り会が応援する六番みこしを盛り上げた。

シャンベやコンガなど世界各国の打楽器に挑戦する「リズムハーフト」では、来場者らが即興演奏を楽しんだ。同市上之園町の保岡宏太郎君(6)は「上手にたたけた。じゃがじゃが」とみんなで歌って楽しい」と話した。

世界各国の太鼓に挑戦する人々＝鹿児島市千日町の天文館銀座通り